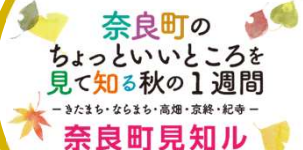


登録有形文化財 旧長壽會細菌研究所

(きゅうちようじゅかいさいきんけんきゅうしょ)



①歴史・概要

奈良長壽會は、大正3年(1914)に喜多芳治郎が設立し、ヨーグルトなど菌類を利用した健康食品の製造販売を行いました。

工場は大正14年(1925)ごろに建てられました。設計・施工は大木吉太郎(※1)とみられます。建物と機器類がほぼ完全な形で残り、稼働当時の様子がよくわかる近代の食品工場として価値があります。西側にある製品庫(昭和前期)とともに、国の登録有形文化財の建造物です。

※1 大木吉太郎:1887-1971。奈良で活躍した建築家。

代表作は日本聖公会奈良基督教会(重要文化財)。

②見どころ:大正~昭和の食品工場の姿

工場の外観は、横長の板を少しずつ重ねて張る下見板張り、妻面は白漆喰塗に束(つか)を見せるハーフティンバー風(※2)のデザイン。内部はキングポストラス(※3)で屋根を支え、研究室や作業場を設けます。多くの機器類が残るのも貴重。



※2 ハーフティンバー:西洋の木造住宅の建築様式のひとつ。柱や梁、束などの木部を見せ、石や土で壁を作るもの。

※3 キングポストラス:主に屋根部分を支える構造形式のひとつ。明治以降に導入された西洋建築の技術。

所有者からのメッセージ

乳酸菌飲料『フトルミン』の製造で昭和50年代まで稼働していた工場設備や商品開発で使用していた研究室・実験機器がそのままの姿を留めています。スペースがあり費用もかかることからそのまま撤去されず残されたと思われる稼働スタート時(昭和初期)の設備群も含め、従業員が働いていた当時の姿をイメージしながらお楽しみください。

建物内に残るさまざまな設備や機器からは近現代(大正~昭和)における商品開発や製造環境・エネルギーの変遷・物流の変遷など、資料からは健康状況を含む当時の国民の生活衛生環境を垣間見ることができます。この工場跡@奈良が日本社会の近代化を知る場所の一つとなることを願っています。



最新情報は
工場跡HPを
ご覧ください

